

第1四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第1四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

三菱食品株式会社

(E02558)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態及び経営成績の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
(1) 【株式の総数等】	6
① 【株式の総数】	6
② 【発行済株式】	6
(2) 【新株予約権等の状況】	6
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	6
(4) 【ライツプランの内容】	6
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	6
(6) 【大株主の状況】	6
(7) 【議決権の状況】	7
① 【発行済株式】	7
② 【自己株式等】	7
2 【役員の状況】	7
第4 【経理の状況】	8
1 【四半期連結財務諸表】	9
(1) 【四半期連結貸借対照表】	9
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	10
【四半期連結損益計算書】	10
【第1四半期連結累計期間】	10
【四半期連結包括利益計算書】	11
【第1四半期連結累計期間】	11
【注記事項】	12
【セグメント情報】	13
2 【その他】	15
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	16

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年8月14日
【四半期会計期間】	平成29年度第1四半期(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
【会社名】	三菱食品株式会社
【英訳名】	Mitsubishi Shokuhin Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 森 山 透
【本店の所在の場所】	東京都大田区平和島六丁目1番1号
【電話番号】	03(3767)5111(代表)
【事務連絡者氏名】	経理グループマネージャー 山 川 幸 樹
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区平和島六丁目1番1号
【電話番号】	03(3767)5111(代表)
【事務連絡者氏名】	経理グループマネージャー 山 川 幸 樹
【縦覧に供する場所】	三菱食品株式会社 関西支社 (大阪府豊中市少路一丁目10番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	平成28年度 第1四半期連結 累計期間	平成29年度 第1四半期連結 累計期間	平成28年度
会計期間	自平成28年 4月1日 至平成28年 6月30日	自平成29年 4月1日 至平成29年 6月30日	自平成28年 4月1日 至平成29年 3月31日
売上高 (百万円)	587,670	612,253	2,411,474
経常利益 (百万円)	3,654	3,182	18,877
親会社株主に帰属する四半期 (当期) 純利益 (百万円)	2,326	2,145	12,391
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,767	3,334	12,667
純資産額 (百万円)	148,255	159,632	157,726
総資産額 (百万円)	590,777	630,111	620,531
1株当たり四半期 (当期) 純利 益金額 (円)	40.71	37.55	216.86
潜在株式調整後1株当たり四半 期 (当期) 純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	25.1	25.3	25.4

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期) 純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ (当社及び当社の関係会社) が営む事業の内容について重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結などはありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日～6月30日）におきましては、自らの事業領域を拡大し、最適な事業ポートフォリオを形成する総合食品商社としての取組みを強化して参りました。本年4月には、「デリカ本部」、「フードサービス本部」、「ライフネット本部」を新設し、成長が見込まれる業務用市場や宅配事業における対応強化と全国横断での取組推進体制を整備致しました。

また、メーカー様とマーケティング、戦略等を共有し、日本全国にブランドの価値と商品をお届けし、メーカー様とともに発展していく「ディストリビューター事業」に取り組んでおります。

加えて、物流の省人化・省力化を中心とした効率化への投資を進め、業績の向上を目指しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は6,122億53百万円（前年同期比4.2%増加）、営業利益は物流費等の販管費の増加等により27億85百万円（前年同期比15.0%減少）、経常利益は31億82百万円（前年同期比12.9%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は21億45百万円（前年同期比7.8%減少）となりました。

品種別、業態別売上高の詳細は、次のとおりであります。

（品種別売上高明細表）

品 種	前第1四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）		当第1四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）	
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）
缶詰・調味料類	67,129	11.4	66,880	10.9
麺・乾物類	38,013	6.5	37,699	6.2
嗜好品・飲料類	67,404	11.5	69,912	11.4
菓子類	68,334	11.6	74,393	12.1
冷凍食品類	116,412	19.8	122,366	20.0
チルド食品類	102,157	17.4	106,084	17.3
ビール類	53,863	9.2	55,678	9.1
その他酒類	44,407	7.5	48,183	7.9
その他	29,946	5.1	31,054	5.1
合計	587,670	100.0	612,253	100.0

(業態別売上高明細表)

業態	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)	
	金額(百万円)	構成比(%)	金額(百万円)	構成比(%)
卸売	49,090	8.3	50,826	8.3
GMS	48,784	8.3	49,454	8.1
SM	221,917	37.8	220,708	36.1
CVS	177,488	30.2	197,363	32.2
ドラッグストア	25,430	4.3	26,596	4.4
ユーザー	14,856	2.5	14,880	2.4
その他直販 (直販計)	42,113	7.2	44,203	7.2
	530,591	90.3	553,206	90.4
メーカー・他	7,989	1.4	8,220	1.3
合計	587,670	100.0	612,253	100.0

(注) 1. GMSはゼネラル・マーチャндаイズ・ストアの略で、総合スーパーであります。

2. SMはスーパーマーケットであります。

3. CVSはコンビニエンスストアであります。

4. ユーザーは外食・中食・給食等消費者へ直接飲食サービスを提供する事業者であります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの利益又は損失の算定方法を変更しており、以下の前年同期間との比較については、前年同期間の数値を変更後の利益又は損失の算定方法により組替えた数値で比較しております。報告セグメントの算定方法の変更の詳細につきましては「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等) セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご覧ください。

① 加工食品事業

売上高は、コンビニエンスストア等との取引が伸長したことや、飲料類等が堅調に推移したこと等から、増加いたしました。利益面につきましては、売上高増加により売上総利益は増加したものの、物流費を中心とした販管費の増加をカバーするに至らず、前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、売上高は1,865億2百万円(前年同期比1.7%増加)、営業利益は4億27百万円(前年同期比35.1%減少)となりました。

② 低温食品事業

売上高は、コンビニエンスストア等を中心に取引が総じて堅調に推移したことや、アイス等が好調であったこと等から、増加いたしました。利益面につきましては、売上高増加により売上総利益は増加したものの、物流費を中心とした販管費の増加をカバーするに至らず、前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、売上高は2,449億35百万円(前年同期比4.6%増加)、営業利益は22億45百万円(前年同期比6.2%減少)となりました。

③ 酒類事業

売上高は、コンビニエンスストア等との取引が伸長したことにより増加いたしました。利益面につきましては、物流費を中心とした販管費の増加等により、前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、売上高は1,074億97百万円(前年同期比5.9%増加)、営業利益は△1億88百万円(前年同期より1億58百万円の悪化)となりました。

④ 菓子事業

売上高は、コンビニエンスストア、ドラッグストア等との取引が伸長したことや、健康志向を背景にチョコレート等が引き続き好調であったこと等により増加いたしました。利益面につきましては、売上高増加による売上総利益の増加等により、前年同期を上回りました。

以上の結果、売上高は728億49百万円（前年同期比7.0%増加）、営業利益は4億76百万円（前年同期比35.5%増加）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	58,125,490	58,125,490	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	58,125,490	58,125,490	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日	—	58,125,490	—	10,630	—	10,400

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日の「議決権の状況」については、株主名簿の内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

(平成29年6月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 987,500	—	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 57,111,900	571,119	同上
単元未満株式	普通株式 26,090	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	58,125,490	—	—
総株主の議決権	—	571,119	—

(注)1. 「完全議決権株式(その他)」の中には、証券保管振替機構名義の株式が、200株(議決権2個)含まれております。

2. 「単元未満株式」には当社所有の自己株式42株が含まれております。

②【自己株式等】

(平成29年6月30日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
三菱食品株式会社	東京都大田区平和島 六丁目1番1号	987,500	—	987,500	1.70
計	—	987,500	—	987,500	1.70

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年 3 月 31 日)	当第 1 四半期連結会計期間 (平成29年 6 月 30 日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,575	736
受取手形及び売掛金	282,067	294,605
商品及び製品	55,656	59,906
原材料及び貯蔵品	87	94
短期貸付金	103,600	93,700
その他	56,237	54,827
貸倒引当金	△211	△212
流動資産合計	499,012	503,657
固定資産		
有形固定資産	62,011	63,323
無形固定資産		
のれん	2,838	2,763
その他	15,285	15,434
無形固定資産合計	18,124	18,197
投資その他の資産		
投資有価証券	23,400	24,961
その他	18,023	20,009
貸倒引当金	△40	△38
投資その他の資産合計	41,383	44,932
固定資産合計	121,518	126,453
資産合計	620,531	630,111
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	383,718	399,449
引当金	2,325	92
その他	56,924	49,753
流動負債合計	442,968	449,295
固定負債		
役員退職慰労引当金	29	—
退職給付に係る負債	10,897	10,999
その他	8,909	10,184
固定負債合計	19,836	21,183
負債合計	462,804	470,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,630	10,630
資本剰余金	33,387	33,387
利益剰余金	110,149	110,866
自己株式	△2,557	△2,558
株主資本合計	151,610	152,327
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,472	7,634
繰延ヘッジ損益	—	△0
為替換算調整勘定	△40	△42
退職給付に係る調整累計額	△379	△353
その他の包括利益累計額合計	6,052	7,238
非支配株主持分	64	66
純資産合計	157,726	159,632
負債純資産合計	620,531	630,111

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
売上高	587,670	612,253
売上原価	546,936	570,426
売上総利益	40,734	41,826
販売費及び一般管理費	37,456	39,041
営業利益	3,277	2,785
営業外収益		
受取利息	15	13
受取配当金	230	269
不動産賃貸料	290	308
その他	242	228
営業外収益合計	779	820
営業外費用		
支払利息	35	33
不動産賃貸費用	279	270
その他	87	118
営業外費用合計	402	422
経常利益	3,654	3,182
特別利益		
投資有価証券売却益	15	20
固定資産売却益	11	—
特別利益合計	27	20
特別損失		
災害による損失	104	—
投資有価証券売却損	22	0
減損損失	—	18
その他	13	4
特別損失合計	140	23
税金等調整前四半期純利益	3,540	3,179
法人税、住民税及び事業税	100	208
法人税等調整額	1,108	822
法人税等合計	1,208	1,031
四半期純利益	2,331	2,148
非支配株主に帰属する四半期純利益	5	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,326	2,145

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	2,331	2,148
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△579	1,162
繰延ヘッジ損益	0	△0
為替換算調整勘定	△6	△2
退職給付に係る調整額	23	26
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	0
その他の包括利益合計	△564	1,186
四半期包括利益	1,767	3,334
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,761	3,331
非支配株主に係る四半期包括利益	5	2

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

次の関係会社等について、金融機関からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年 6月30日)
RETAIL SUPPORT (THAILAND) CO., LTD.	234百万円	236百万円
従業員	0	—
計	234	236

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年 4月 1日 至 平成29年 6月30日)
減価償却費	1,505百万円	1,578百万円
のれん償却額	75	75

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間（自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年 6月27日 定時株主総会	普通株式	1,657	利益剰余金	29.00	平成28年 3月31日	平成28年 6月28日

当第1四半期連結累計期間（自 平成29年 4月 1日 至 平成29年 6月30日）

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年 6月26日 定時株主総会	普通株式	1,428	利益剰余金	25.00	平成29年 3月31日	平成29年 6月27日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	加工食品 事業	低温食品 事業	酒類事業	菓子事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	183,464	234,157	101,486	68,078	587,186	483	—	587,670
セグメント間の内部売上 高又は振替高	88	37	3	8	137	2,181	△2,318	—
計	183,552	234,194	101,489	68,086	587,324	2,665	△2,318	587,670
セグメント利益又は損失 (△)	657	2,392	△29	351	3,373	77	△173	3,277

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流関連事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額
報告セグメント計	3,373
「その他」の区分の利益	77
のれんの償却額	△74
全社費用	△98
四半期連結損益計算書の営業利益	3,277

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	加工食品 事業	低温食品 事業	酒類事業	菓子事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	186,502	244,935	107,497	72,849	611,784	469	—	612,253
セグメント間の内部売上 高又は振替高	105	0	0	1	109	2,377	△2,486	—
計	186,608	244,935	107,498	72,851	611,893	2,846	△2,486	612,253
セグメント利益又は損失 (△)	427	2,245	△188	476	2,961	35	△212	2,785

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流関連事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額
報告セグメント計	2,961
「その他」の区分の利益	35
のれんの償却額	△74
全社費用	△137
四半期連結損益計算書の営業利益	2,785

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、組織のセグメント見直しに伴い、従来「酒類事業」に含まれていたホテル・一般消費者向けの一部取引を「低温食品事業」に変更しております。

また、報告セグメントごとの業績をより適正に評価管理するため、主に当社の共通コストの配賦基準等を見直し、事業セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の利益又は損失の算定方法により作成したものを記載しております。

（1株当たり情報）

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）
1株当たり四半期純利益金額	40円71銭	37円55銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 （百万円）	2,326	2,145
普通株主に帰属しない金額（百万円）	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額（百万円）	2,326	2,145
普通株式の期中平均株式数（株）	57,138,299	57,137,938

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

平成29年8月9日

三 菱 食 品 株 式 会 社
取 締 役 会 御 中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 峯 敬 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 坂 上 藤 継 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱食品株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱食品株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。